

2025 年 3 月期 決算説明会 質疑応答

質問者①

Career SBU に関して、FY2025 予想は 7%の増収に対し、FY2026 は二桁成長させたいという話があった。外部環境が変わると見ているのか、それとも御社の内部努力によって達成するのか。どういう考えで FY2026 の二桁成長を考えているのか教えて欲しい。

CEO 和田

ひとつは FY2026 に外部環境が少し変化すること。もうひとつは、生産性の向上や、テクノロジーを活用した利便性の向上により、より多くの方々に登録いただき、その方々へのサービスの幅を広げる。この 2 つの要因で二桁成長を実現できると認識している。

質問者①

外部環境に関して、現状のリテンションの強化によって転職希望者の動きが少し鈍い状況は、FY2025 はそれほど FY2024 と変わらないが、FY2026 は少し緩和し、良くなっていくと考えているということか。

CEO 和田

その通りである。転職希望者は賃金上昇により一旦リテンションされるが、2～3 年経つと、報酬以外の、チャレンジや環境を求める方が一定増えてくると想定しており、動きも活発化すると認識している。企業にとっても、この 1～2 年で必要な人材のスペックも変わってくる。そういった中で動きがもう一段進んでいくのではないかと見立てている。

質問者①

アメリカの関税問題に関して、FY2025 の業績予想には織り込んでいないとの説明だったが、特に景況感の影響を受けやすい Career SBU において、現状、求人企業側で何らかの変化は見えているのか。懸念があれば教えて欲しい。

CEO 和田

結論、変化は現状見えていない。我々も非常に感度高くお客様の状況等の確認はしているが、現時点で採用の抑制、求人の取り消し、採用期間の長期化などの動きは出ていない。

質問者②

投資に関して、Asia Pacific SBU のファシリティマネジメントと、その他セグメントのシェアフルで投資していくとのことだが、それぞれどの程度の期間続くのか。今後の見通しについて教えて欲しい。

CFO 徳永

Asia Pacific SBU のシステム投資は、FY2025、FY2026 の約 2 か年続く見込み。シェアフルのマーケティング投資は、FY2025 は続く想定している一方で、FY2024 にある程度マーケティング投資を行ったので、FY2025 以降は、トップラインの状況も見ながら、マーケティング投資を拡大するのではなく、収益性を見ながらある程度コントロールしていきたいと考えている。

質問者②

シェアフルについて、登録者数など、競合他社でも開示されているような、参考になる数字を教えて欲しい。

CFO 徳永

前年対比で、FY2024 はトップラインが 60~70%伸びた。最大手と比べてまだ規模が小さいということもあり、FY2025 の実績も見ながら適時、数字は開示していきたい。

質問者②

Career SBU はエーエージェント、ダイレクト・リクルーティング、ジョブボードのビジネスがあるという理解だが、どこに力を入れたいとお考えなのか。

CEO 和田

基本的にエーエージェント事業が我々の中核事業であり、引き続き強化していく。ジョブボードはエーエージェントに結びつけていくためには必要不可欠かつマーケットの中でも非常に効果があるという評価もいただけている状況であり、この相乗効果を生かしながら、しっかりとエーエージェント事業の強化を図りたい。

質問者③

FY2024Q4 の営業利益が大幅減益になっている。Staffing SBU の影響が大きいと思うが、要因は何か。

CFO 徳永

Staffing SBU の Q4 の調整後 EBITDA は前年対比で 29%減の 43 億円だった。要因は、募集広告を中心にマーケティング投資を増やしたことが 1 点目。2 点目は、Staffing SBU において、システム移行を FY2024 から FY2025 にかけて計画しており、その移行費用が主に FY2024Q4 に発生したため。

質問者③

マーケティング投資とシステム移行に係るコスト、どちらの費用が多いのか。また、どれぐらい続くのか。

CFO 徳永

金額的には、マーケティング投資とシステム移行に係るコストいずれも同程度。マーケティング投資は FY2025 期初の営業インパクトを踏まえて FY2024 の Q4 に実施したので、FY2025 も継続するというよりは、マーケッ

トの状況を見ながらコントロールしていきたいと考えている。一方でシステム投資については、FY2024 後半から FY2025 一年間を通じて発生し、FY2026 にも少し掛かると今は見立てている。

質問者③

FY2025 の予想を上期・下期で比較すると、利益額は同程度だが、前年同期比の増益率は上期より下期の方が高い。FY2024 の Q4 の利益が大きく落ちたため、下期の増益率が高く見えるということか。

CFO 徳永

その通り。FY2024 の下期に Staffing SBU で募集広告を中心にマーケティング投資を強化した等あったが、FY2025 は改善するため、Staffing SBU の FY2025 下期の調整後 EBITDA は 163 億円と、前年同期比増益を見込んでいる。

質問者③

全社の営業利益は上期前年同期比 6.8%増益に対し、下期同 25.2%増益となっているが、その影響が大きいのか。

CFO 徳永

Staffing SBU も要因の 1 つだが、Career SBU の調整後 EBITDA も FY2024 下期が 135 億円に対し、FY2025 下期予想が 164 億円。Career SBU の増益も全体の増益インパクトとしては大きいと認識している。

質問者③

Career SBU の調整後 EBITDA が FY2024 上期 168 億円から FY2024 下期 135 億円に減った理由は何か。

CFO 徳永

FY2024 下期、特に Q4 にマーケティング投資を通常に比べ 20~30 億円程度強化したのが要因。マーケティング投資は FY2025 も継続するが、偏りのないようにする計画であり、FY2025 下期の前期比増益幅は大きいと見立てている。

以上